

(巻頭言)

久仁京介

新潟市立工業高校・去年今年

明けましておめでとうございます。

何を隠そう、作詞家とはまったく無縁の機械技術系の出身であることを、去年は痛烈に気づかされました。卒業から65年経ったいま、学校がどんな変遷を辿っていたのか、考えることもなかったし、思い出すこともなかった不埒な卒業生でした。その母校が他の学校と併合されて学校名が変わったという話、その後閉校になっていた話はほとんど知らないまま無関心でいたことになります。

また2023年、学校の跡地は新潟市の総合コミュニティセンターになり、その後民間に売却されホームセンターへと変遷していったことなどの情報を知りました。

ホームセンターの建設がスタートし、土地が掘り起こされると、驚いたことに閉校される昭和56年に建てられたという「新潟市立工之跡」の記念碑が土の中から発見されたというのですね。すっかり忘れ去られ、埋もれていたですね。

昭和20年の設立、開校してから昭和57年の閉校に至るまで、37年間に約7000名の卒業生を送り出したと云うこと。

我々は14年目、昭和34年の卒業生ですから、ちょうど日本の成長期の真っ盛り、東京タワーの開業が昭和33年と云えば思い当たることでしょう。

2023年7月30日この建立された石碑の除幕式と講演会が、新しいホームセンター様のご好意により賑々しく執り行われました。

新潟市の下町といわれるこの地域の歴史の一つとしてこの石碑「新潟市立工之跡」は顕彰されていくということです。

2016年、島津亜矢さん歌唱の久仁京介作詩「独楽」という作品が「日本作詩大賞」の栄誉を戴いた時のことです。

親友鶴木清二君が、何か記念に残ることをやろうと云って、始めたことがありました。

彼は重いバセドウ病の身体を押して、同級生名簿頼りに出しにくい声で皆に呼びかけた。同級会をつくろうと云うのだ。